

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100441		
法人名	社会福祉法人 東和歌山福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホームあんず (2階ユニット)		
所在地	和歌山県和歌山市東田中310		
自己評価作成日	令和3年1月21日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JiyosyoCd=3090100441-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺にはのどかな田園風景が広がり、紀州木材を基調とした内装で家庭的な環境の中、当施設は法人の運営方針である「満足と信頼の得られる施設を目指して」と、グループホーム独自の理念「地域との関りを大切に」を常に掲げ、より質の高い介護サービスの提供に、また地域に根差した施設づくりのため民生委員さんとの連携や小学校、近隣の施設との交流会に参加し関わりを持つように努めています。入居者様への介護において、本人の自己決定を尊重し安心して過ごすことができるよう支援し、家族様への定期的な報告を行っています。また看護師を配置、訪問看護の活用、主治医との連携により看取りケアも実施させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設している特別養護老人ホームの職員と資質向上研修計画を立案し、法令遵守・感染症対策等を担当者が学び、それを内部研修で他の職員に伝えている。また、入居者とそのご家族との関わりを通し、看護師・主治医・訪問看護師の24時間体制の支援を得て、入居者のほとんどの方に終末期ケアを実施している。現在、コロナ禍の影響で中断しているが、運営推進会議に参加している民生委員との関わりの中で、地域の障がい者施設と介護施設との交流会を定期的に行うことができるようになり入居者の交流が広がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に地域との交流を大切にす為グループホーム独自の理念を作成している。法人理念については職員が全体会議にて唱和している。また外部の方にも知って頂く為に玄関に掲示している。	地域との交流を大切にするため「地域とのかかわりを大切にする」という理念を考え、例えば「きしゅう君の家」として登録することにより、小学生がトイレを借りに立ち寄ってくれるという実践を通して、職員間で理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の介護施設の方や障害者施設の方との交流会を定期的実施したり地域の文化祭に参加させて頂いている。	コロナ禍で今年度は実施できなかったが、職員が地域の文化祭の実行委員として参加したり、民生委員の協力のもと、地域の介護施設や障がい者施設との交流会を定期的実施するなど、入居者が地域の一員として交流できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議に民生委員の方に参加して頂いています。また地域文化祭の行事実行委員として参加させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にてパワーポイントを活用したスライドにて行事内容や事故内容、ヒヤリハットの報告をしたり勉強会、お茶会等を開催している。	運営推進会議は、民生委員・地域包括支援センター職員・入居者も加えて事業所のリビングでパワーポイントを活用して行っていたが、現在は資料を送付し、行事や事故内容・問題点等を報告し、参加者に現状を理解いただきながら、頂いた意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議には地域包括支援の方に参加して頂いたり、生活支援課の方ともこまめに連絡をとり交流ができている。	運営推進会議での関わりなどで、日頃から事業所に関する相談をしたり、地域の行事に参加するなど市との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて拘束ゼロの徹底に努めている。また常に新しい情報の確認をし職員で共有している。	併設している特別養護老人ホームと一緒に、年間を通して職員の資質向上研修計画を作成し、担当者が身体拘束研修を受講後、それを基に内部研修を実施し、新しい情報を共有している。時には入居者の行動を制限する言葉が発せられる場合もあるが、職員間で注意し合うよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて虐待について報道されたニュースなどの情報を共有するなど常に新しい知識を得る機会を設けている。また委員会では虐待や虐待にあたる可能性はないのかを確認し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、リーダーが権利擁護の研修に参加し、当月のユニット会議で研修内容を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明に関するマニュアルとチェックシートを整備し、入居契約の際に確認をしながら概ね1時間程度時間を要して行っています。特に入居費用や重度化に関する対応などを重点的に説明します。契約時に疑問点等のヒヤリングを実施し、納得した上で契約締結を行っています。また実費費用の変更の際にも、事前に書面郵送と電話での説明を行い、納得していただいた上で契約締結を行っています。そして契約締結後も家族からの相談に随時受付対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所前に目安箱を設置している。毎月の請求書送付時にケース担当者から家族様にお手紙を送らせてもらい日頃の様子を伝えています。また家族様からもお手紙にて返事をいただいたり、電話にて意見交換ができています。	担当職員が、毎月1回入居者の状態や事業所の様子を手紙でお知らせすることで、入居者の家族と信頼関係を築けている。また、家族からいただいた意見は、常に前向きに検討され、入居者の毎日の生活や事業所の運営に反映させるなど対応が図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員と一緒に日勤帯、夜勤帯の業務にはいる事により職員との意見交換や改善点を一緒に検討する事ができている。	職員間での話しやすい環境を作ることが最適と考え、管理者も共に業務に携わっている。同じ業務に関わることで、管理者・職員間の垣根がなくなり、些細なことについても相談ができる関係が築かれ、改善点等があった場合は、全員で検討のうえ運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も介護職員と一緒に業務に入ることにより、個々の職員の向上心を確認することができる。又、年2回の人事考課を実施。職員個々の取り組みを理解する事ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人社員は知識向上目的の為、先輩職員には知識の再確認、指導力の向上の為、毎月のユニット会議で内部研修を実施しており、資料を作成し発表する場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設の方と定期的に交流会があり情報交換を図れている。また隣接する特養との合同全体会議や勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に必ず本人様と会話させて頂き少しでも信頼関係を築けるようにする。また可能であれば家族様と施設まで来て頂き見学する事により安心して入居できるようにして頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や契約の際に、本人様、家族様の要望をよく聞き不安の解消に努めさせて頂く。また入居日の次の日、1週間後は必ず家族へ電話連絡し、入居後の様子を報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接や契約時に収集した情報を元にケアプランを作成。朝礼や申し送りの際、入居後1週間程度は、できる限り認知症の症状や入居生活の様子について情報交換を行い、ケース担当者が中心となり計画担当者でプランを作成する。また入居され概ね1か月経過後に担当者会議を開催し、サービスの確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気分や体調等確認しながら、食事前後のテーブル拭き、食後の食器運びや食器洗い、また洗濯衣類を畳んでもらうなど、今まで行ってきた家事動作を行えるよう声掛けをしながら実行して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度担当職員が、利用者様の普段の生活の様子や、体調面などを手紙に書き、近況報告を行っている。また本人様が家族様に伝えたいことなどがあれば記載させて頂くよう行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様に許可を得て本人様が住んでいた家や周辺の風景の写真を撮り、時折本人様に見てもらったりもしてもらう。また入居者様の知人からの電話にて会話してもらったりもしている。	コロナ禍のなか、入居者の安全を第一と考え外出が難しい状況であるが、入居者の自宅や馴染みの風景を撮影し、入居者に見ていただくなど関係継続について支援している。なお、事業所を自宅だと思われる入居者も多くなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂では、入居者様同士の雑談交流が出来るようパーソナル距離を配慮し、テーブルや座席の位置を工夫して職員も同テーブルに座り、交流の橋渡し出来るよう関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所が概ねであり、葬儀に参列させて頂いたり、お悔やみの手紙を送らせていただく際は、施設生活の様子を振り返りながらの文面を記載したりと、ご家族様に寄り添えるよう行っている。また施設生活で撮った写真を整理し、データをお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様との日常会話の中から聞き取った情報や日々の行動、ご家族様から聞き取りを行った情報などを基に本人様が安心して生活が出来るようケアに取り組んでいる。	日々の関わりの中で、入居者の状態を記録のうえ、朝夕の申し送り時に職員間で情報を共有し個々の思いや意向の把握に努めている。また、担当職員が、一か月に1度入居者の状態を手紙にて家族に知らせ、家族との思いのギャップをなくすよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が愛用していた家具など持ち込んで頂いても良い事を説明し、持参して頂いている。家具以外では写真や馴染みの普段着も持参して頂き、入居者様には安心感を得られるよう環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	4か月に1度の担当者会議時に身体状況を観察評価していきながらケアプランを更新している。また介護日誌には日常生活の言動を記録していき職員間で意見交換しながら情報収集に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フェイスシート、センター方式(D1シート、24Hシート)を活用し、利用者様の多様な変化やニーズに柔軟に対応し、ケアプランに反映できるよう努めている。家族様の要望に対しては容易に引き受けるのではなく、現在の本人様の状態をお伝えし本当にそれが本人様にとって良い事なのかを検討しお応えする。	状態に変化がなければ四か月に1回見直している。医師や看護師、訪問看護師が、入居者の状態把握を入念にし、職員の気づきにも迅速に対応できている。また、家族も含めた話し合いの際は、現状に即した介護計画が検討・作成できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護面と医療面は情報が混合しないよう別冊にし、職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケースや申し送り帳、日誌などに記録、朝夕の申し送りを実施し、職員間の情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の都合が合わない場合での入所時や通院時の送迎や、本人が日常生活での必要物品は職員が別購入し個々の満足さに繋がるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへ職員と一緒に買い物に出掛け、品物を選んでいただいたり、近所の農家の方から野菜を頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診を中心に行っている。また協力医療機関への受診や他の専門医の受診など出来る限り職員で対応し必要な医療を受けられるよう支援している。	隔週の月曜日には、協力医療機関の医師の往診があるとともに、24時間体制での往診も受けられる。また、専門医の受診には、家族と協力しながら、職員が付き添い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師の配置、訪問看護の活用をし、介護職員はいつでも医療の事を相談できる体制を整えている。また定期的に連携がスムーズにいくように連絡体制のマニュアル等の見直しを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に職員が様子を見に行ったり、家族や医師、病棟看護師等と意見交換をしながら状況把握に努め、地域連携室の方と連絡を取り、本人様が入院前どのように過ごされていたかを詳細に伝え、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の件については家人様と契約時に十分説明をさせていただき、納得してもらっています。必要性がでてきた場合には早急に担当医と家族様にて今後の方向性について話ができる場を設けています。また看取り開始時には訪問看護も活用し夜間帯の体制も整えている。	重度化や終末期に向けての方針は、契約時に本人や家族に丁寧な説明を行っている。入居者の重度化や状態の変化時には、家族に医師・看護師の意見を伝え、話し合いを行い、手術や入院の必要のない方以外は、看取りを行うようにしている。看取り時には、訪問看護師や医師も24時間体制で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新任研修や定期的に勉強会を開催している。又、施設にAEDを設置しており、使い方の講習も受講している。また近隣の消防署とも連携し医療情報カードを作成している。急変時や事故発生時には発生前は当然の事、発生後にも対応がスムーズであったか問題はなかったかをユニット会議で見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施、自動火災報知機やスプリンクラーなども設置し、消防器具の点検は業者に依頼し定期的に行っている。また緊急連絡網に地域消防団への連絡先を掲載し、災害時の地域との協力体制を整備している。	併設する特別養護老人ホームと、入居者も参加しての昼夜を想定した消防訓練を年2回行っている。また、災害の際は、地域の消防団と協力し合う体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人研修や現任研修を行っている。一部の例として外部の利用者様宛の在籍確認の電話連絡については確認事項を職員の目につきやすい所に掲示している。個人情報に係わる事は職員一同周知徹底している。	入居者の呼称は、家族や本人に聞いて決めるようにしている。また、入居者の個室も施錠できるようにしており、必ず声掛けをして開けてもらうようにしている。入居者への声掛けや対応については、新人研修や現任研修で、理解を深めつつ、職員間で気づいた点は注意し合うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に1度の訪問理美容では、好みの髪の長さをご本人様が伝えたり、週に1度来苑する移動パン屋では、自分の好みのパンを見て選んで購入し、食べる事を楽しみにされている入居者様が多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事に関しては部屋で食事がしたい時は自室へ配膳させて頂くが、特に問題がなければ他の入居者様と一緒に食事をして頂く。入浴はその日の体調や気分を本人に確認させて頂きながら実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の衣類選びではその日の気分や好みを確認しながら支援している。また入浴後の髪型、離床時の整容など身なりを整えるよう声掛けし支援している。自己にて身だしなみを決定出来ない人に対しては、職員が季節や色合いの組み合わせを考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族様やご本人様への聞き取りを実施し、食事の好き嫌いに対応している。食前ではテーブルを拭いて頂き、食後の後片付けや下膳などを手伝って頂ける場面もあり、残存能力を活かせるよう努めている。	入居者のできる範囲で、テーブル拭きや配膳下膳をいただいているが、年々難しくなっているのが現状である。食事には、自家菜園で作った野菜を収穫後、皆でいただいたり、パンの訪問販売から、それぞれ好きなパンを購入のうえ、その日のおやつや翌日の朝食にと楽しんでいただくよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、1日の水分量を記録し体調の観察を行っている。一般的な家庭料理を提供する中、日々ADLを観察しながら個々に配慮した食事を提供し安心して頂けるように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施を行っている。できない方は職員介助のもとで行っている。又、家族様の希望や本人からの訴え、食事時に変化等があれば相談し、毎週の歯科衛生士による口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入院中はベッド上でのオムツ交換であったが、退院後、日中はトイレ誘導を促しトイレでの排泄に向けた自立支援を行うなどの工夫を行っている。	排泄チェック表を基に、夜間での2人介助が必要な入居者には、オムツをしていただくこともあるが、日中はトイレ誘導を行うようにし、出来る限り自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では野菜を摂取して頂く献立を考え支援し、活動面では随時運動を促している。また、毎朝乳製品を提供し、自然排便が出来るよう取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様が気持ちよく入浴出来るよう随時声かけ行き意向を確認している。気分が乗らない、体調不良等の時は、入浴時間や入浴日を変更したりと調整しながら実施している。	週2回、入居者の希望に添って入浴を楽しめるようにしている。嫌がる入居者には「温泉に行こう」と、一旦車で近所を1周して帰り、温泉気分が入浴をしていただくなど、個々の気持ちに沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々に、自由に自室で過ごして頂いたり、他入居者様や職員と雑談したりと、その日の気分や体調を観察している。また日によって、1時間程度の昼寝を促すなど、休息を取りながら座りつきにならないよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬情報を把握出来るよう、入居者様一人ひとりにお薬手帳を用意している。また各フロアに処方箋を準備し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の中では、外出に出掛けられたり、本人が好きな塗り絵をする時間を促したり、信仰の為部屋で毎日拝んだりと個々が大切にされている時間を尊重し少しでも長く続けられるよう対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ユニット別での外出行事やユニット内で少人数でのドライブ、家族様協力のもと、家族様と住み慣れた自宅へ帰られたり、買い物に行かれています。近隣の小、中学校や保育園、他施設さんとの交流会を図り、遊びに行かせて頂いています。	以前は、初詣やスーパーでの買い物など頻繁に出かけることができていたが、現在は、コロナウイルス感染症の影響に伴い、入居者の安全を第一と考え、近場に車で出かけることや、事業所前の菜園にて、野菜の水やりや収穫くらい等しかできないのが現状である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様や家族様が希望される場合のみお金を所持し管理を行ってもらっている。又、持っていない方でも買い物時は立替にて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のご家族様宛の手紙に本人の意向を反映し、繋がり支援を行っている。また入居者様が家族に連絡をとりたいと訴えた際には連絡し会話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体が、温かみのある紀州木材を基調とした雰囲気です。玄関にはベンチを置き、出入りのしやすい環境を整備している。夏は風鈴、正月には門松など季節を取り入れた飾りつけも行っている。また浴室は出入りしやすいようにバスボードの機能を果たすような洗い台を設置。温度管理として1日2回空調温度を確認しており、各居室についても温度、湿度計を設置し過ごしやすい環境になるよう努めている。	木材の温かみの感じられるリビングのキッチンには、柔らかな表情のお雛様が飾られ、キッチンの反対側の大きく開かれたガラス戸からは、明るい日差しが差し込んでいる。食事をしているテーブルからは、併設する事業所に入居する人の姿も目に入るなど、入居者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では気のあった入居者様同士で会話を楽しまれていたり、テレビを視聴できるようにソファを配置している。また共同空間に居る際にも独りの時間を過ごせるよう、所々に一人用の椅子を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年自宅で使用されていた家具を持参して頂き、編み物や読書など本人が大切にされている習慣も継続して行って頂けるよう家族様と連携を取りながら安心出来る環境作りを行っている。	居室には広いクローゼットがあり、洋服等が収納しやすく、全体的にすっきりされている。棚には、家族の写真や自分の好きな小物が並べられるとともに、マットレスを敷き詰めたり、畳の部屋にするなど、入居者の状態や好みに合わせた配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクの高い人はすぐに掴まる事の出来る様な居室配置や、転倒しても大丈夫な様マットレスを床に敷いたり、危険である所は事前に保護を行う。トイレは、トイレマークや文字、開け方の説明等で全入居者様にわかってもらえる様工夫し、日々の状態変化の元、安全に過ごしてもらえる環境整備を行っている。		